風来坊
2010

8．平安遷都 1300 年祭で賑わう奈良へ　　2010. 6. 11.

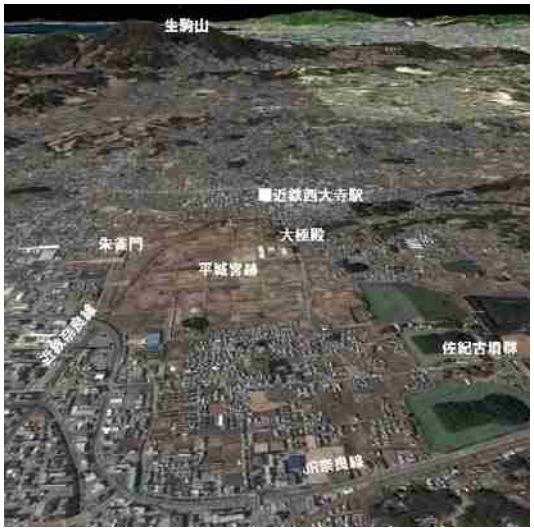
大遣唐使展・若草山・平城宮　大極殿

平城宮跡に復元された大極殿と平城宮より眺める奈良の山々〔中央が若草山〕

6 月 11 日　平安遷都 1300 年祭でにぎわう奈良へ照ってきました。
平安遷都 1300 年祭にあわせて平城宮跡に復元された朱雀門と大極殿見学と奈良国立博物館の大遣唐使展がお目当て。
ちょっと時間があったので、見上げた若草山の頂上まで登ってきました。

近鉄電車に乗って生駒をトンネルを越えて大和平野に入ってまもなく奈良の山々が近づいてくると一面野原の中を電車が横切り、奈良の市街地に入ってゆく。　この野原が平城京跡である。

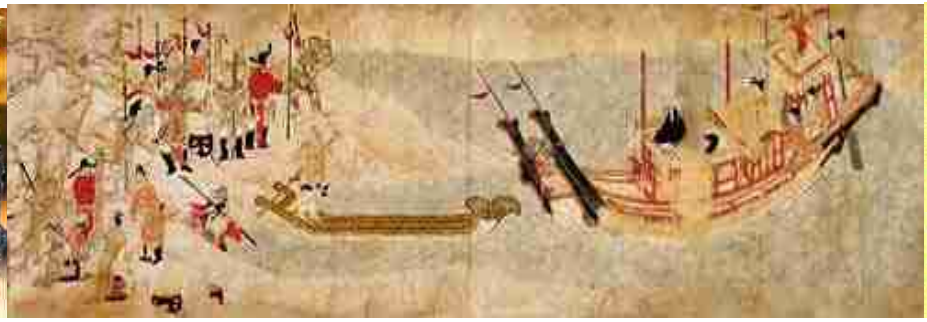
西大阪側から平城宮・奈良市街地・若草山



東の奈良市側から平城宮・生駒山

この平城宮跡を通り過ぎるといよいよ奈良モードに頭が切り替わる。
この平城宮跡周辺に立つと「奈良の市街地の背後に若草山などの山々　くるりと振り返ると生駒の山並み」の景色が素晴らしい場所で、いにしえの奈良のロマンを掻き立ててくれる場所でもある。　この景観の中に真っ赤な朱雀門・大局殿の建物が復元された。　本当に素晴らしい景観が奈良に加わると期待して出かけました。
また、奈良国立博物館で開催中の「大遣唐使展」　日本の国づくりに大きな影響を与えた遣唐使について　断片的には知っていますが、数世紀にわたる全体像を眺められるチャンス。ちょうど前週　同じ平城遷都 1300 年記念として奈良橿原市で開催されていた「大唐陵展」（橿原考古学研究所博物館）を見たところである。
東大寺大仏殿の東側の山並みの中にある若草山は遠足や何やかやで何度も山腹の斜面で遊んだ記憶があり、大仏殿の建物を上からちょっと眺めたいと上り始めたのですが、まったく知らなかった頂上。頂上部に丘が 3 つもあり、一番奥の御陵のある丘が頂上で　南には吉野・金剛　中央に生駒　北に山城・笠置の山並みをバックに大和平野の大パノラマが広がっていました。
遣唐使が大陸の文化を運んできた奈良時代を思い浮かべながら　あまり足を踏み入れたことのない奈良を見てきました。

1.　平安遷都 1300 年記念　大遣唐使展



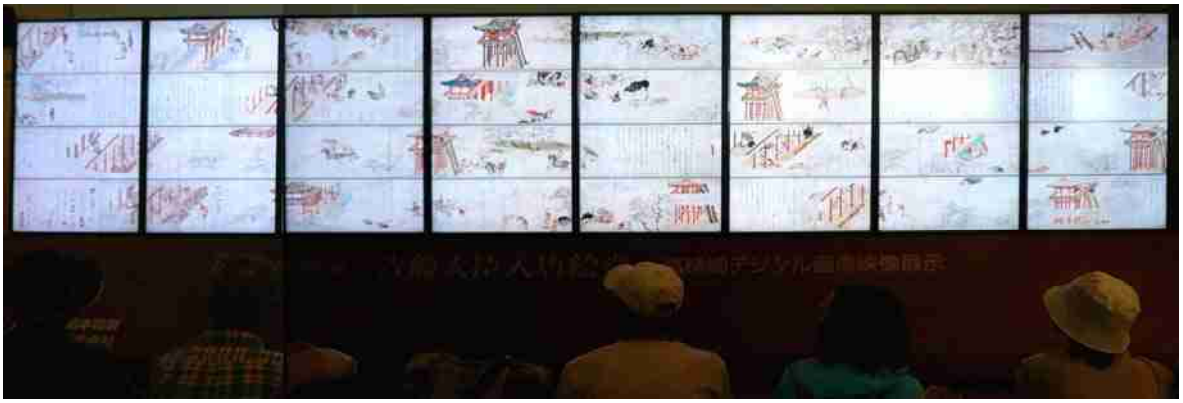
奈良国立博物館「大遣唐使展」とボストン美術館所蔵「吉備真備絵巻」に描かれていた遣唐使船　　2010. 6. 11.

7 世紀から 9 世紀　古代日本の国づくりと密接に関連した遣唐使。遣唐使を通じて　古代の日本・朝鮮・中国関係史が見えてくる。ひそかに　ライフワーク「鉄の歴史」にも　大きな影響を与えたに違いない遣唐使　と期待もして・・・・・。
この時代のレビューも含めて、非常によくまとまった図説「大遣唐使展」が出ていますので、内容は省略しますが、
断片的だった時代の流れが理解できて楽しい展覧会。イヤホンを耳につけ解説を聞き漏らすまいと全部見た展覧会でした。

- **ボストン美術館所蔵「吉備真備絵巻」**

遣唐使船の絵というといつもこの絵巻が出される有名な絵巻。　其の程度の知識しかありませんでしたが、漫画チックでこんなに面白いのか・・・と。

遣唐使吉備真備が在唐中に幽閉され、鬼（幽霊）となった安倍仲麻呂に導かれて、皇帝による『文選』や囲碁による無理難題を解いて、遂に帰国を達成するという歴史上の人物の業績伝。
その業績伝に、鬼が出てきたり、空を飛ぶ吉備真備がえがかれていたり、囲碁の勝負で相手の碁石を飲み込んだ真備の「糞」を取り囲んで眺める唐の官吏が描かれたりなのである。



大遣唐使展　映像展示より　　2010. 6. 11.

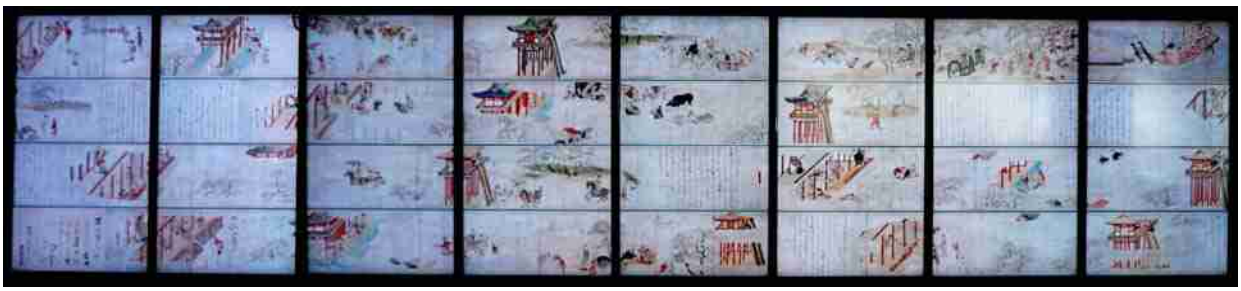
「鬼を操り・空を飛ぶ“魔法使い”。
持ち帰った文物や帰国後の業績等から、真備は中国語はもちろん儒教や律令制度、天文学、軍事学、音楽まで幅広くマスターしていたと考えられる。最先端の知識とそれらを駆使する合理的思考が、当時の日本の人々にとってあたかも“魔法使い”のように見えたのかもしれない。」
NHK 歴史秘話ヒストリア 奈良の魔法使い ～日本を救った遣唐使・吉備真備(きびのまきび)～ より
http://www.nhk.or.jp/historia/backnumber/46.html

絵巻の中で、鉢が飛ぶ「信貴山」縁起絵巻（平安時代末期 12 世紀）が一番面白いと思ってきましたが、同じ平安時代末 12 世紀に作られたこの「吉備真備絵巻」に描かれた説話も実に面白い絵巻でした。
絵巻の物語が絵巻の解説と共に大きなビジョンに再現され見られたのも goo で、映像展示を見て 再度絵巻を見に戻りました。

● **7 世紀 官営の生産工房 飛鳥池遺跡**

この 7 世紀には 数々の生産技術が日本に伝わり、日本の国造りに必要な数々の物資を供給する官営生産工房が営まれた。 鉄生産についても、朝鮮半島に頼っていた鉄素材の輸入オンリーから脱し、官営の鍛冶工房・製鉄工房が設置され、国内での本格的な実用鉄生産が展開されてゆく。 遣唐使と伝来した生産技術の関係を知ることができるかもしれないと思っていましたが、7 世紀の官営生産工房飛鳥池遺跡が代表として展示されていました。
飛鳥池遺跡では金銀・胴・鉄の工房 鋳銭工房 玉作工房 漆器工房など多岐にわたる工房画操業していたことが確認されていて、特に日本で最初に作られた富本銭 ならびに水晶・ガラス・琥珀・メノウなどの玉作り そして当時最先端の鉛ガラスが作られ、これらの工具に鉄が数多く使われた。
写真では何度か見たことがあるのですが、初めて実物を見ました。

若草山山頂から見た奈良の市街地 2010. 6. 11.



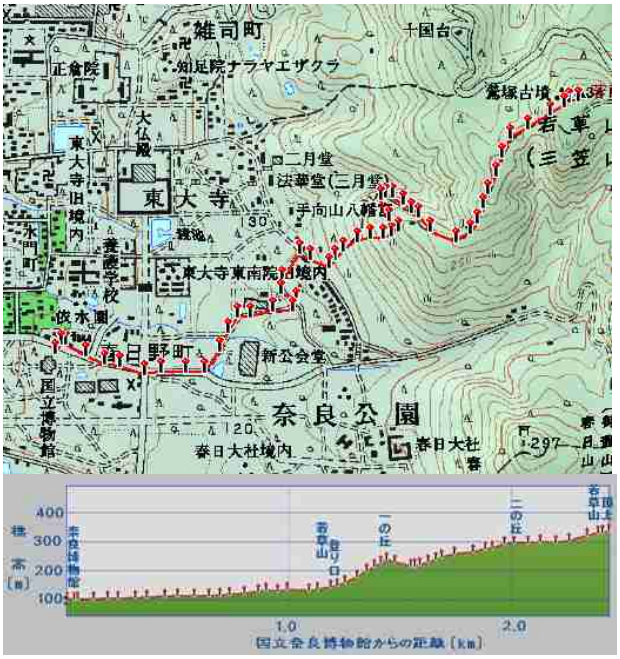
大遣唐使展 高精密ディジタル画像展示「吉備真備絵巻」展示 2010. 6. 11.

2. 若草山　walk

若草山の頂上の記憶がないので、一度登ろうというのと大仏殿の建物　そして　平城宮あたりがどんな風に見えるのか、奈良側から眺めた後で、平城宮へ行こうといとに若草山へ。

博物館から左手に東大寺大仏殿を行く人たちを眺めながら奈良公園の中を東へ真っ直ぐ若草山へ。

ちょうど　修学旅行のシーズンで平日人が多いのですが、東大寺大仏殿への道を越えると静かなもの。 鹿ものんびり草を食んでいる。



ほんの 15 分ほどで若草山の登り口。　以外にも若草山山腹の斜面には誰れもいない。子供の頃　遠足できて　おにぎりやみかんが転がらないよう気にしながら弁当を食べた記憶があるのですが・・・・。沢山の子供たちが弁当を広げている光景をイメージしてきたのですが、拍子抜け。　林になっている左手　日陰の階段で弁当を広げている子供たちの集団を見つけて、なんとなくほっとする。もっと　上に登っていたのだろうか・・・・まったく記憶がない。

若草登り口　正面から若草山山腹

若草山山腹斜面より　大仏殿の屋根が見える

入口で 150 円を払って　山腹を登りだす。　華やいだ声が飛び交う奈良公園とは対照的　静かなもの。
「上まで登らないと　大仏殿全体は見えないよ」と入口で聞いて　牧草地養生で垣がしてある正面のところまで登って　それから　山腹の左手　林の中の階段状の登山道を登る。

山腹中央から眺めた奈良　2010. 6. 11.

南側　山の端に天香具山から飛鳥

写真中央　西側

正面奥に生駒山その下にならの市街地

写真中央　右手に平城宮がうっすら見える

北側　若草山山腹の手前の森の上に

大きな大仏殿の屋根が見える

山腹の斜面から左の林のところへトラバースして林の中をすこし登って林を抜けると一の丘〔標高約 260m〕の広い野原に出る。
山腹の登り口側から見えた頂である。　正面には同じ景色ながらまた　違った角度で奈良の町並み　大和平癒矢が見える。
ここが頂上と思いましたが、さらに奥へと尾根道が続き、左手に二の丘〔標高約 310m〕。二の丘から谷を回りこんで奥に若草山頂〔標高 342m〕上の展望台が見える。　山腹を登れば直ぐ上が頂上と思っていましたが、まだ奥があるのにびっくり。
まったく記憶になし。

若草山の山腹から頂上への登山道は山腹左端の林の中　15 分ほどで尾根筋　一の丘へ

一の丘からの大和平野の展望　　若草山は大和平野眺望一番の展望台　2010.6.11.
南から北へ　青垣・吉野・金剛・葛城・信貴・生駒　そして山城と続く山々を背に 180 度大和平野の大パノラマ

一の丘を登って　二の丘へ　　2010.6.11.

二の丘から一の丘越しに大和平野

二の丘からは谷越しに三の丘（若草山頂上部）

二の丘からの眺望　　正面に今まで屋根しか見えていなかった大仏殿の建物全体が見える　2010.6.11.

尾根筋を回りこんで三の丘（若草山頂上部）へ

二の丘から細い尾根筋を回りこむと展望台になっている三の丘若草山頂上部。鹿が山頂付近で阿蘇名で居るのが見える。　この山上へは　地図見て知ったのですが、裏のドライブウエイを通って直ぐ下の駐車場まで、バスでは入れるので　多くの観光客が居る。
南北に細長い頂上部の北側半分が4世紀末の前期前方後円墳「鶯塚古墳」で「枕草子」にもこの古墳のことが記されているというが、誰の御陵なのかよくわからぬという。
この古墳の北の端　後援部の頂が　この三の丘の一番高いところで　標高342m　若草山の頂上である。
この古墳と関係があるのか知りませんが、若草山を下りて北西へ少し行ったところが4世紀末から5世紀前半にかけての王墓　佐紀古墳群があり、平城京が開かれる前　まだ　奈良の南部に都があった時代から、この地が王城の地であっことが窺える。
三の丘に登ったところが丘の中央部で　ここだけに木々があり、その木陰で鹿たちがのんびり休んでいる。
ここから北側へ前方後円墳の「鶯塚」で　前方部の入口で　南側には展望台の野原が広がっている。

南北に伸びる三の丘の中央部　左手北側へ横たわる鶯塚古墳の入口（前方部　）
左奥に北側に後円部の頂上部にある碑が見え、またここより南側には展望台の野原が広がっている

鶯塚古墳正面より　墳丘を見る　手前が前方部で奥が後円部　　この頂上が若草山頂上である　　2010.6.11.

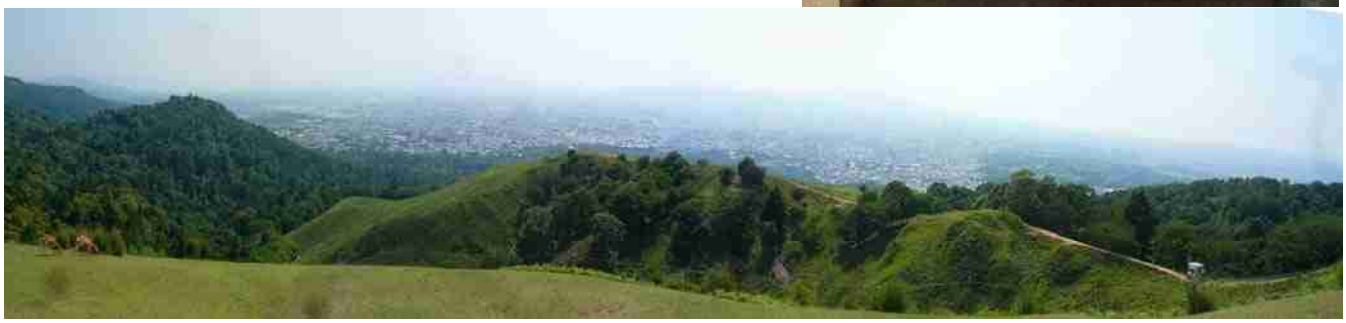
三の丘中央部から西側二の丘を眺める

鶯塚の中に入って　墳丘の上を歩いて　墳丘の頂上に立つ。ここが若草山の頂上。
ここからは主に大和平野の北側部分を中心に 360 度の展望が楽しめる
北には奈良への北側の入口　木津川口。
木津から南山城・笠置の山の展望が広がり、直ぐ向こうが　関西線が木津川にそって三重県亀山へ向かう加茂町恭仁京のあった辺りである。
南側には丘の中央部の右手に大和平野が霞んでいる。

鶯塚頂上から南側　丘の中央部から西へ二の丘への尾根

鶯塚頂上より北側　木津川口を眺める

鶯塚を降りて　南の展望台の野原へ。
奥山ドライブウェイの駐車場から東側の縁かを通って中央部に出る遊歩道があり、ここから観光バスでやってきた一団が大和平野の案内板と首っききで　西側に広がる大パノラマを眺めている。
こんなに素晴らしい大和平野の眺望が見られるとは本当に知りませんでした。

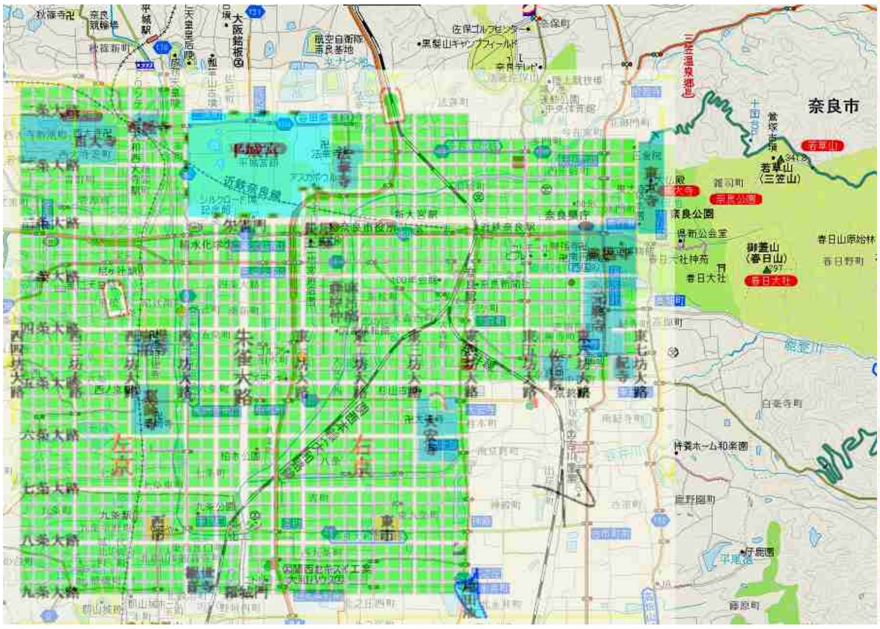


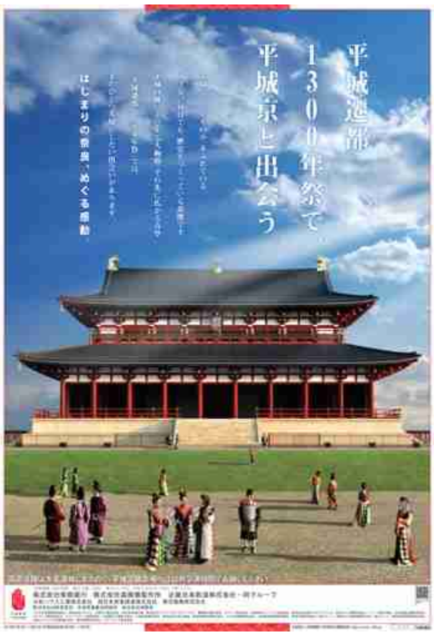
若草山頂上部　三の丘展望台からの大和平野の眺望　　2010. 6. 11.

明日香　大和三山　　青垣・吉野と金剛の間の紀ノ川・吉野川口　大和平野正面　金剛・葛城と生駒の間の大和川口
そして　北側　生駒と山城の間の淀川・木津川口　大陸・西日本から古代奈良へ入る３つの口がそのまま見られる絶好の場所。
関西の人も良く知っているようで知らない場所。「若草山」
新潟からやってきたという初老のご夫婦　また　東京からやってきたという若い人たちみな異口同音
　「奈良にやってきて　何とはなしに　若草山登りだしたのですが、こんな素晴らしい景色が見られて感激」と。

「大和は国のまほろ場」　ぼんやりと大和を眺めながら、古代のロマンを思い浮かべるには絶好の場所でした。

3. 平城遷都 1300 年祭　平城宮跡　復元朱雀門と大極殿





現在の奈良の地図に正確ではありませんが　平城京の大きさを重ねました

平城京　平城宮・大極殿

平城京は現在の奈良の町の西方にあり、710 年元明天皇が藤原京より遷都してから桓武店頭が長岡京に移るまでの都で、唐の都長安に習って作られ、東西約 4.3 ㌔南北約 4.8 ㌔の規模で東西・南北に規則正しく並べた道路で　碁盤の目のように区切られていた。

　平城京北端中央に　天皇の住処や政治や国家的儀式を行う政庁などがある大内裏（平城宮）があり、貴族役人の住まい・大寺院などが建ち並び、庶民の住む茅葺の家や田畑も広がっていた。そして、都が長岡京にうつると次第にさびれ、農地になっていった。

平城京のメインストリートは、京の南門である羅城門から北にまっすぐにのびる幅約 74m の朱雀大路。朱雀大路をはさんで西側を右京、東側を左京と呼ぶ。左京には北の方で東にさらに張り出しがある。

平城京の住民は 4～5 万人とも 10 万人ともいわれますが、天皇、皇族や貴族はごく少数の百数十人程度で、大多数は下級役人や一般庶民たちだったといわれる。

朱雀大路の北端には朱雀門がそびえ、朱雀門をくぐると天皇の住居であり政治や国家的儀式を行う平城宮で、周囲には大垣がめぐり、朱雀門をはじめ 12 の門がありました。また、内部には政治・儀式の場である大極殿・朝堂院、天皇の住まいである内裏、役所の日常的業務を行う曹司、宴会を行う庭園などがあった。内裏は、奈良時代を通じて同じ場所にありましたが、奈良時代前半に朱雀門の真北にあった大極殿（通称、第一次大極殿）は、740 年恭仁京に都が移り、難波京、紫香楽京と転々とした後　745 年に平城京に再び戻ってきた時　東側の区画に建てられた（通称、第二次大極殿）。

現在　文化庁による「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」に基づき、遺跡の整備・建造物の復原を進められ、第一次大極殿（2010 年竣工）・朱雀門（1998 年竣工）・宮内省地区・東院庭園地区の復原が完了。平安遷都 1300 年に当たる 2010 年（平成 22 年）4 月 23 日　旧暦 3 月 10 日、第一次大極殿の完成記念式典が行われ、よく 4 月 24 日より 11 月 7 日まで、この平城宮・大極殿をメイン会場に奈良県各地で平安遷都 1300 年祭が開催されている。

若草山を降りて午後 3 時過ぎ　平城宮跡へ向かう。
朝　電車から見た平城宮跡には大勢の人やバスがつらなっていたが、夕方近く　人ごみも減って、ゆったり見られるだろう。
奈良の山々を背景に遮る物のない緑の野っ原に真っ赤な朱雀門・大極殿が建っている。　また、大極殿の屋根の向こう生駒連山の肩に沈む夕日が見られるかもしれない・・・・と。
　近鉄西大寺駅で降りて　東へ線路沿いの道を引返す。「今から行っても　4 時までで　もう建物の中に入れんよ。」と道々に立つ警備・案内に立つ人に教えてもらうが、イベントを見に行くつもりなく　平城宮の野原をゆっくり歩けて、私にとっては好都合でした。

やっぱり　一番南の朱雀門から入って真っ直ぐ北の大極殿へ行って北側から帰ろうと線路の南側平城宮の一番南側に廻って玉手門から入って駐車場を抜けて　朱雀門へ。
近鉄の線路の南側手前半分は車やバスの大駐車場・バスセンターになっていて、その南側に真っ赤な朱雀門。其の向こうから、線路の北側にかけて　広大な野原が広がり、　其の一番北に大極殿が見えている。
バスセンターの南側の端平城宮歴史館建物手前に遣唐使船が復元展示されているのが見えるがもう閉館しているので、そのまま朱雀門へ向かう。
歩く道の両側はがっしり縞々模様の交通整理の三角帽子と縞々棒で規制されていて、この道以外に歩けない。
ガチガチの歩行規制。まあ　こっちは車との共存なので仕方ないのですが、線路の北側の平城宮の広い野っ原にもこの縞々模様で歩行規制され、どこを見てもこの強烈な　赤白や緑白の縞々模様が、眼に入って閉口する。

駐車場越し北の大極殿

復元展示されている遣唐使船

西側から朱雀門　背後に若草山が見える

若草山を背後に近鉄特急が平城宮跡内を走り抜けてゆく

朱雀門

平城宮　近鉄線路の南側　　2010. 6. 11.

雑踏の人並みが消え　ゆったりと平城宮の中が歩ける。　平城宮のど真ん中に立って、野っ原の両端に建つ朱雀門と大極殿の写真を撮って帰ろう。そして　ここを走り抜けてゆく阪神なんば線の電車と大極殿の写真にもトライしようと北へ向かう。

平城宮の中を阪神なんば線の電車が走り抜けてゆく　北に大極殿が見える　2010.6.11.

平城宮　大極殿側から南の朱雀門

平城宮中央（第二次大極殿跡から　東　奈良の山々　中央が薄緑の山が若草山

平城宮　朱雀門側から北の大極殿

平城宮中央（第二次大極殿跡から　西側　大極殿　　2010.6.11.

大極殿の上にうっすら生駒山がかすんでいるのですが、逆光で写らず

大極殿南門前より　生駒山を望む　　逆光でかすんでいる　2010.6.11.

大極殿　南門前より　西側　　2010.6.11.

大極殿　南東より

復元大極殿の東側　第二次大極殿跡より南側

復元大極殿の東側　第二次大極殿跡より西側から北へ　　正面生駒山

復元大極殿の東側　第二次大極殿跡より東側　　正面　若草山

復元大極殿の東側　第二次大極殿跡より北側　内裏跡

ゆっくりと平城京の中を南から北へ　　立ち止まったり　振り返ったり　デジカメでパチパチやりながら約1時間　平城宮を楽しみました。　朱雀門と大極殿とがそろうと平城京が本当に真っ直ぐ南北の軸を中心に造営されたこと、また　その東西に聳える若草山と生駒山の山並みの中にすっぽり納まっていることも。そんな遮る物のない野っ原の緑の中に赤い大きな古代建造物が建っている。頭にえがいていたイメージどおりの光景が見られて本当に満足。
これから　さらに　この中に次々奈良時代の建造物が復元されていくというのも楽しみ。

大極殿の北側に出て　西の広い道を西大寺駅へ下ってゆく　もう夕方　日が傾きだした　2010.6.11.

復元大極殿の北西側から　南の朱雀門を眺めながら帰る　　2010.6.11.夕

久しぶりの奈良にどっぷりつかった1日　平城遷都1300年祭を楽しんで帰りました。
「大遣唐使展」もおもしろかったし、若草山の頂上からの展望の素晴らしさも。
　旧の名前が三笠山だと後で思い出しましたが、「国のまほろば　大和」全体を眺める素晴らしい展望台であること　本当に知りませんでした。　ならや生駒の山々をバックに朱雀門・大極殿がのっぱらの緑に建つ平安京　古代ロマンを掻き立てる写真もピンボケながら撮れました。

ただひとつ　気になりましたのは 平城宮の中の歩行規制に使われた縞々の三角帽子の多さには本当にびっくり。
車の通らぬ内部一杯に張り巡らされた縞々模様　復元された建物のまわりにも。。。
車が通らぬ中にど派手な規制具ガ居るのかと首を傾げました。
どうも平城宮跡の野原はイベント会場への道としてしか考えられていないのではないか・・・・と。
この野原が　1300年前の平安京を思い起こさせるロマンの景色と考えているのは私だけだろうか・・・
奈良の古代のロマンを求めてやってくる人のイメージとはかけ離れたイベント主義。
奈良の人はどうおもっているのだろあか・・・と。
「そんなこというのは　お前だけ」やと言われそうですが、　でも　奈良の観光の姿勢が見えますよ・・・と。
気持ちのよい奈良が低俗なイベント主義にならぬよう。
また、古代のロマンを奏でるこの場所が奈良のみんなが楽しみにする祭の場に発展かれば、よいのになあ・・・と。
京都御所が四季を通じて京都市民に愛され、親しまれているように。
ここから東大寺大仏殿や若草山をつなぐ道を使った沿道の人達みんなが参加する祭が展開されれば、この復元大極殿も生きるのに・・・とつい　いらぬお世話の一言。

平城遷都1300年祭の奈良を久しぶりに訪れて　　帰路　神戸への直通電車の中で
2010.5.11.　　by　Mutsu Nakanishi